
釧路川の利用と保護

釧路カヌー連絡協議会
会長 仲尾直人

はじめに

平成3年10月市内にある6クラブが集まり、「釧路川的环境を守りマナーの向上を目指したい」として、釧路カヌー連絡協議会が発足し、まる2年が経過した。カヌーが漕げないシーズンが半年もある当地で、各クラブごとの活動に合わせて協議会の活動をもするというのは大変な事、限られた短い夏の土・日を利用したとしても回数に限りがある。そんな事からこの1年は無我夢中で活動を終えたといった感じである。28番目の国立公園として釧路湿原国立公園は昭和62年7月誕生した。1市2町1村がスッポリと入る広さは、26,861haと甲子園球場が6,783個も入ってしまうほどの大きさである。しかもその内約21,000haは湿原で我が国全湿原の面積の約60%を占める。釧路湿原は西高東低の大地でちょうど左手のひらを開いた形であるが、この大地も湿原の周辺の牧草化が進み湿原が乾燥してきている、つまり手のひらを開いた形から左手の指を全部切り取られた形へと面積が縮小し始めている。海拔2.5~5m（尾瀬ヶ原は海拔1,000m以上）で低地ながら多くの植物が咲き、貴重な動物、鳥達が生息していて、水を含んだ巨大なスポンジであり大きな水瓶のような大地である。

昭和55年ラムサール条約（小鳥の生息地特に国際的に貴重な湿地に関する条約）の登録湿地として指定をうける。そして今年6月アジア地域で初めて釧路で開催された。

釧路湿原は、特別天然記念物のタンチョウをはじめ鳥類約170種、植物約700種、哺乳類26種、両生類4種、爬虫類5種、魚類31種、昆虫類は確認されているだけでも1,100種以上になる（釧路市立博物館調査による）。これからもこの湿地が非常に貴重であり、国際的にも重要であることが理解できると思う。釧路川のほぼゴール地点に近い場所で春と秋の2回行う釧路川清掃川下り（塘路湖キャンプ場～細

岡間の約10数キロ)。春先の清掃時が一番ゴミの量が多く、発砲スチロール、ジュース、ビールの空き缶、コーラのペットボトル、洗剤の容器、釣り糸、ルアー、タバコの吸殻など、時には自転車、冷蔵庫、モーターボートの残骸、こうなると私たちのカヌーにはとても積めるシロモノではないので行政にお願いして回収願うことになる。毎年清掃していて感じるが、ゴミの量こそ年々着実に減ってはいるが、ゴミの種類がここ数年間まったく同じである。私たちはカヌーの遊びを通じ、ゴミは必ず持ち帰るという1つの礼儀作法を学んだ。カヌーで川下りをしている私たちだからこそ湿原の中を流れる川の汚れには気付くが、一般の人達には踏み込むことができない場所だけに気付かない。ところがそれに気付いてもらえるチャンスが年に1度ある。それは毎年釧路市が開催する湿原フェアでの体験カヌーツーリングである。

水鳥の視線でカヌーに乗り漕いでいると自然の雄大さとは反対に、そぐわない風景に出くわすゴミである。その日1日だけのカヌーイスト達は、自然の美しいキャンパスにふさわしくない風景に口を揃え、あれゴミ！「誰が捨てるんだろうね」との言葉に「ゴミは捨てないで持ち帰ってもらったら、もっともっと川がきれいになるんですよ」と私たちが話すと同時に「自然を保護するにはまず美しい環境作りをしなければ、と思いをこめ川の美しさと一緒に人達に伝えて下さい」と話す。

以上から保護については、微力ながら少しは啓蒙できたように思えるが、この事に関しては地道なコツコツ運動の展開が必要であるし、実行していく考えである。全国でも源流部より下流部までダムの無い原始の姿そのままを残している釧路川は、全国のカヌーイストの中でもとりわけ人気度の高い川である。その川でまったく事故がなかった訳ではない。命を落とす事故までには至らないまでも、一歩間違えばといった事故が数多くある。そのトラブルメーカーのほとんどが本州からのツーリング客である。原因が、初めて下る川なのに下調べも十分せずに、カヌーを宅急便で送りつけ、いきなり漕ぎだす人や、ゴール地点の場所をもチェックせずに下り、上陸する場所が分からず遭難騒ぎになったりと、原因のほとんどが初歩的なミスである。また、危険な場所なのに無理に下ったりという事でカヌーが壊れ回収できずにそのまま放置して行ったりと、マナーの悪さにはただ驚くばかりである。私たちはこの1年、自然の保護を啓蒙すると共に川を取り巻く行政の方々ともコミュニケーションを計ることができた（環境庁、北海道開発局釧路開発建設部、釧路市庁、釧路市、釧路土木現業所）。その結果川の案内板、カヌーの乗降場所、川の危険な箇所の手直しと、官民一体となった事故防止および環境保護の改善策を打ち出し、少しずつながらも改善されており、私たちの努力が実ったものとする。

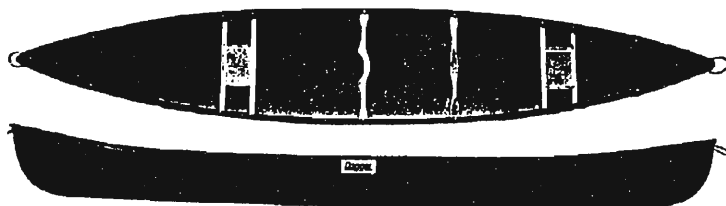
さあそれでは、最後にカヌーに乗り込み美しく雄大な母なる大地釧路川を漕ぎ出しましょう。その前にカヌーの歴史，種類，乗り方について簡単にお話し致します。

1. 発祥の簡単な歴史

現在カヌーやカヤックと呼んでいる小型カヌーの原型は、グリーンランドエスキモーの「Quaja」と呼ぶ流木かアザラシの骨を腸で縛りつけフレームとし、アザラシの皮を覆って作られた物を起源とする。

2. カヌーの種類

カナディアン・カヌー



●エンドバッグ

両端に装着するフローテーション・バッグのこと。初めから、この位置に発泡材の浮力体や、エアチャンバーのつけられたタイプのカヌーもあるが、それが無い場合は必ず装着したい。また、ヨークの下あたりに装着する大容量のフローテーション・バッグもあり、これはセンター・バッグと呼ばれる。

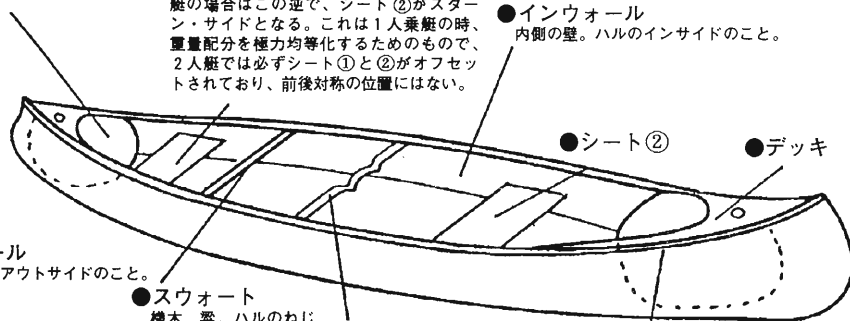
●シート①

座席のことだが、必ずしもここへ着席して漕ぐ必要はない。場合によっては、直接インウォールに膝をつけてパドリングする方が効率のいいこともある。

また、2人乗艇の場合は、シート①がスターン、シート②がバウとなるが、1人乗艇の場合はこの逆で、シート②がスターン・サイドとなる。これは1人乗艇の時、重量配分を極力均等化するためのもので、2人艇では必ずシート①と②がオフセットされており、前後対称の位置にはない。

●インウォール

内側の壁。ハルのインサイドのこと。



●アウトウォール

外側の壁。ハルのアウトサイドのこと。

●スウォート

横木、梁。ハルのねじれや、横方向のつぶれを防ぐ補強となるほか、パドラーの手すり代わりになるバー。

●ヨーク

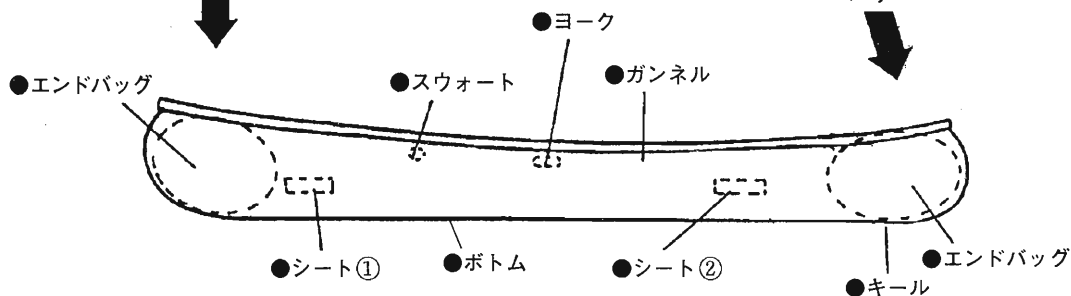
基本的にはスウォートと同様の働きをもつものだが、ヨークはこのほかにもカヌーをかつぐ時の“かつぎ棒”の働きもある。

●ガンネル

スターン

バウ

●エンドバッグ



●フォワード・ストローク

✓ フェザリングの繰り返しをすることで、フォワード・ストロークとなる。引き手より(漕ぐ側の手)、押し出す方の手にパワーを入れて漕ぐ。



●リバース・ストローク

↓ バックへ進みたいときには、パドルを持ちかえることなく、ブレードのバックを使い後ろから前へと漕ぐ。身体をひねりながら漕ぐのがコツ。どちらか片側を漕ぐときに後方を見るとよい。両側で見ようとすると、バランスを失う。

●乗艇、下艇

✓ パドルでカヤックと岸を同時に押えることで、カヤックを固定し乗り込む。パドルをコーミングの後ろにあて、シャフトとコーミングの後ろにあて、シャフトとコーミングをつかむ。もう一方の手でパドル・シャフトを持ち、体重を両手にあずけ足先から乗り込む。艇から降りるときは、そのまったく逆。腰をうかせ、足を最後にぬく。

●グリップ

1 カヤックに乗り込んだとき、腰、膝、足で身体と腰を固定する。これで、ゆらゆらとするカヤックのゆれを腰で吸収する。バランスが、グッとよくなるはずだ。



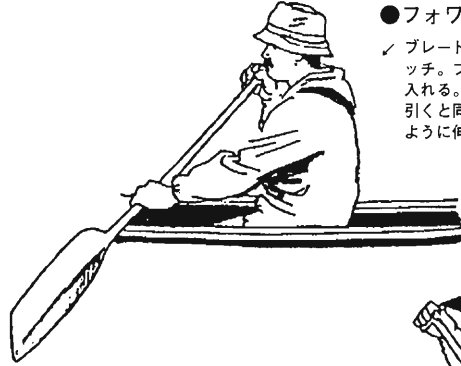
●シングル・パドルの持ち方

→ パドルの長さは各自の身長と力に合わせて選ぶ。シャフトの長さが、立ち膝の姿勢をとったときの床から首までの高さと同じくらいがいい。パドルはカヌーの右、左どちら側に入れてもかまわない。自分がやりやすい側を漕ぐ。グリップは上からおさえるような感じで持つ。ブレード側を持つ手の位置は各自が一番漕ぎやすいところを持ってほしいが、一般には肩幅よりやや広めのところ。



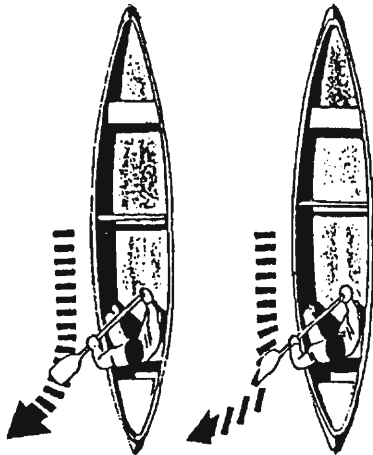
●フォワード・ストローク

✓ ブレード側の腕を伸ばし前方の水をキャッチ。ブレードはカヌーに対して垂直に入れる。水の抵抗を感じながらパドルを引くと同時にグリップ側の腕を押し出すように伸ばしていく。



●J & ラダー

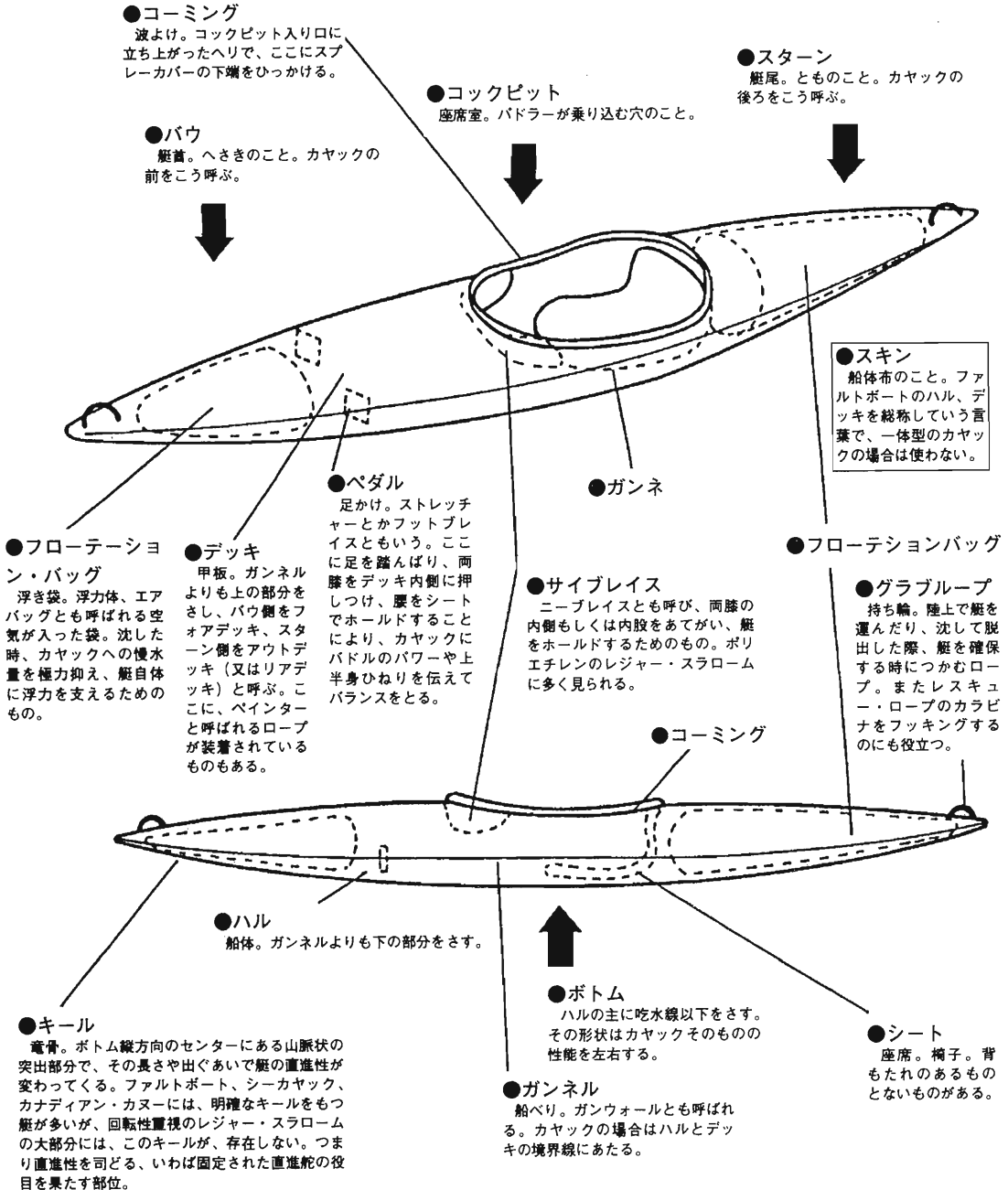
← 片側だけを漕ぐとカヌーは、漕いだ逆の方へ曲ってしまう。そこで、Jストロークとラダー・ストロークで、真っ直ぐ進むよう練習しよう。Jストローク(左)は、前から漕いだきたブレードを最後に90度ひねり、漕ぐ面で水を外に押し出して方向をとる。ラダー・ストローク(右)は、漕ぎ終りに止めを入れ、曲がりかけたカヌーをもとに戻す。止めだけで航がきかないときは、裏面で外へ押し出し、曲がりかけたカヌーを元の方向へ向けてやる。意外と簡単な方法だ。



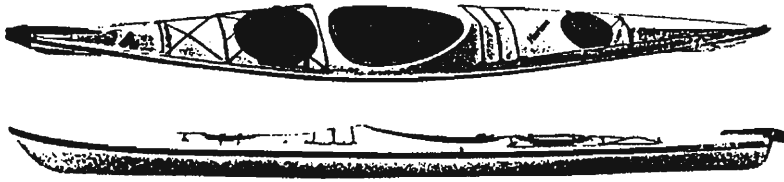
カヤック



(レジャー・スラロームとファルトボート共通)



シーカヤック



●ハッチ

デッキのフタ。ネジ込みタイプと、ネオプレンのインナーとプラスチックのアウトカーバーを組み合わせたタイプがあり、いずれも完全防水の構造になっている。この中に、ツーリングに必要な用具類を入れておく。

●マップデッキ (チャートテーブル)

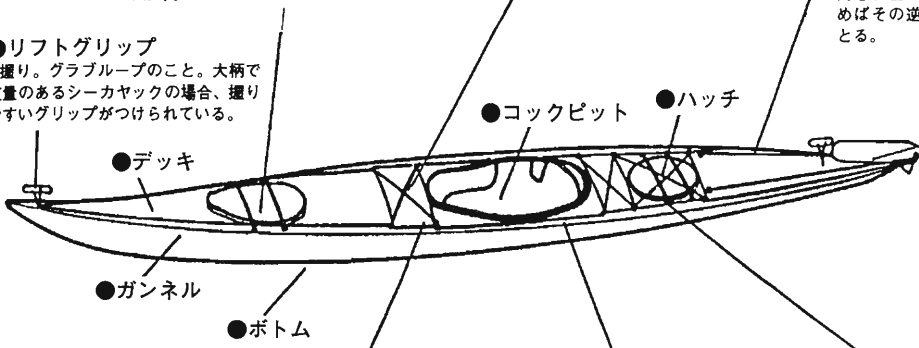
地図を置く甲板。コックピットから、すぐ手の届く位置にあり、地図や頻繁に使う小物を置いておく所。タイダウンがあるので、これでホールドできる。

●ラダーワイヤー

ラダーを操作するためのワイヤーで、2本ありそれぞれが左右のペダル(可動式)に繋がっている。右のペダルを踏めばパウは右へ向き、左のペダルを踏めばその逆へと進路をとる。

●リフトグリップ

握り。グラブリングのこと。大柄で重量のあるシーカヤックの場合、握りやすいグリップがつけられている。



●ラダー

舵。小刻みに回転させるためというよりは、カヤックを一定の方向へ固定する“当て舵”として使用するためのもの。不要な時は、ロープを引くことによりデッキ上に巻き上げることができる。



●パウ



●タイダウン

ストレッチ・ロープやショックコードで作られたデッキ上に物を固定するためのロープ。マップデッキとスターンデッキに多く見られる。

●ペインター

安全ロープ。沈して脱出した時、カヤックを確保するためのロープ。これに手や腕をかけて、パドラーからカヤックが離れていかないようにする。フックを外してのばせば、トウロープ(牽引用ロープ)や繫留ロープとしても使えるタイプが多い。

●パドル・ストラップ

セルフレスキューの時、アウトリガーにしたパドルを固定するためのベルト。カヤックの縦方向に平行にセットされている。タイダウンと共用のものも多い。

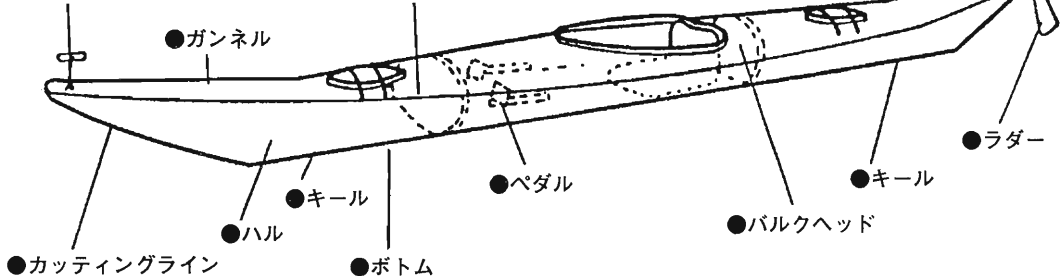
●スターン



●バルクヘッド

隔壁。コックピットの front と後ろにあり、完全密閉された壁。これによりパウとスターンにラゲージスペースが生じ、同時にエアチャンバーとして浮力体の役割を果たす。これがないタイプのシーカヤックには、必ずローテーション・バッグが必要。

●リフトグリップ





湿原保護へ確かなぎずな

世界の自然保護をめざり、釧路市と海外八日間にわたる熱い議論が戦わされたラムサール条約締結国が土曜、閉幕した。期間中、多数の市議員やボランティアが会場の内外で活躍、語学や文化は多岐にわたる。参加者は「ラムサールの意義が印象的だ」と、同日から始まった「市民の歓迎、感動した」の熱い空気を醸成した。

市民の歓迎、感動した

「海外参加者の感想は、ラムサール条約は一面が、多岐にわたる。参加者は「ラムサールの意義が印象的だ」と、同日から始まった「市民の歓迎、感動した」の熱い空気を醸成した。

「海外参加者の感想は、ラムサール条約は一面が、多岐にわたる。参加者は「ラムサールの意義が印象的だ」と、同日から始まった「市民の歓迎、感動した」の熱い空気を醸成した。

「150%の成功」 笑顔絶えず

「海外参加者の感想は、ラムサール条約は一面が、多岐にわたる。参加者は「ラムサールの意義が印象的だ」と、同日から始まった「市民の歓迎、感動した」の熱い空気を醸成した。



さっそく始まったラムサール会議実施本部の役片付け

「海外参加者の感想は、ラムサール条約は一面が、多岐にわたる。参加者は「ラムサールの意義が印象的だ」と、同日から始まった「市民の歓迎、感動した」の熱い空気を醸成した。

売上げは期待外れ

「海外参加者の感想は、ラムサール条約は一面が、多岐にわたる。参加者は「ラムサールの意義が印象的だ」と、同日から始まった「市民の歓迎、感動した」の熱い空気を醸成した。

3年後のホスト役

「海外参加者の感想は、ラムサール条約は一面が、多岐にわたる。参加者は「ラムサールの意義が印象的だ」と、同日から始まった「市民の歓迎、感動した」の熱い空気を醸成した。



首尾良い運営に感心

「海外参加者の感想は、ラムサール条約は一面が、多岐にわたる。参加者は「ラムサールの意義が印象的だ」と、同日から始まった「市民の歓迎、感動した」の熱い空気を醸成した。



大津 謙二さん

「海外参加者の感想は、ラムサール条約は一面が、多岐にわたる。参加者は「ラムサールの意義が印象的だ」と、同日から始まった「市民の歓迎、感動した」の熱い空気を醸成した。

「海外参加者の感想は、ラムサール条約は一面が、多岐にわたる。参加者は「ラムサールの意義が印象的だ」と、同日から始まった「市民の歓迎、感動した」の熱い空気を醸成した。

「海外参加者の感想は、ラムサール条約は一面が、多岐にわたる。参加者は「ラムサールの意義が印象的だ」と、同日から始まった「市民の歓迎、感動した」の熱い空気を醸成した。

「海外参加者の感想は、ラムサール条約は一面が、多岐にわたる。参加者は「ラムサールの意義が印象的だ」と、同日から始まった「市民の歓迎、感動した」の熱い空気を醸成した。



カヌーで水面すっきり

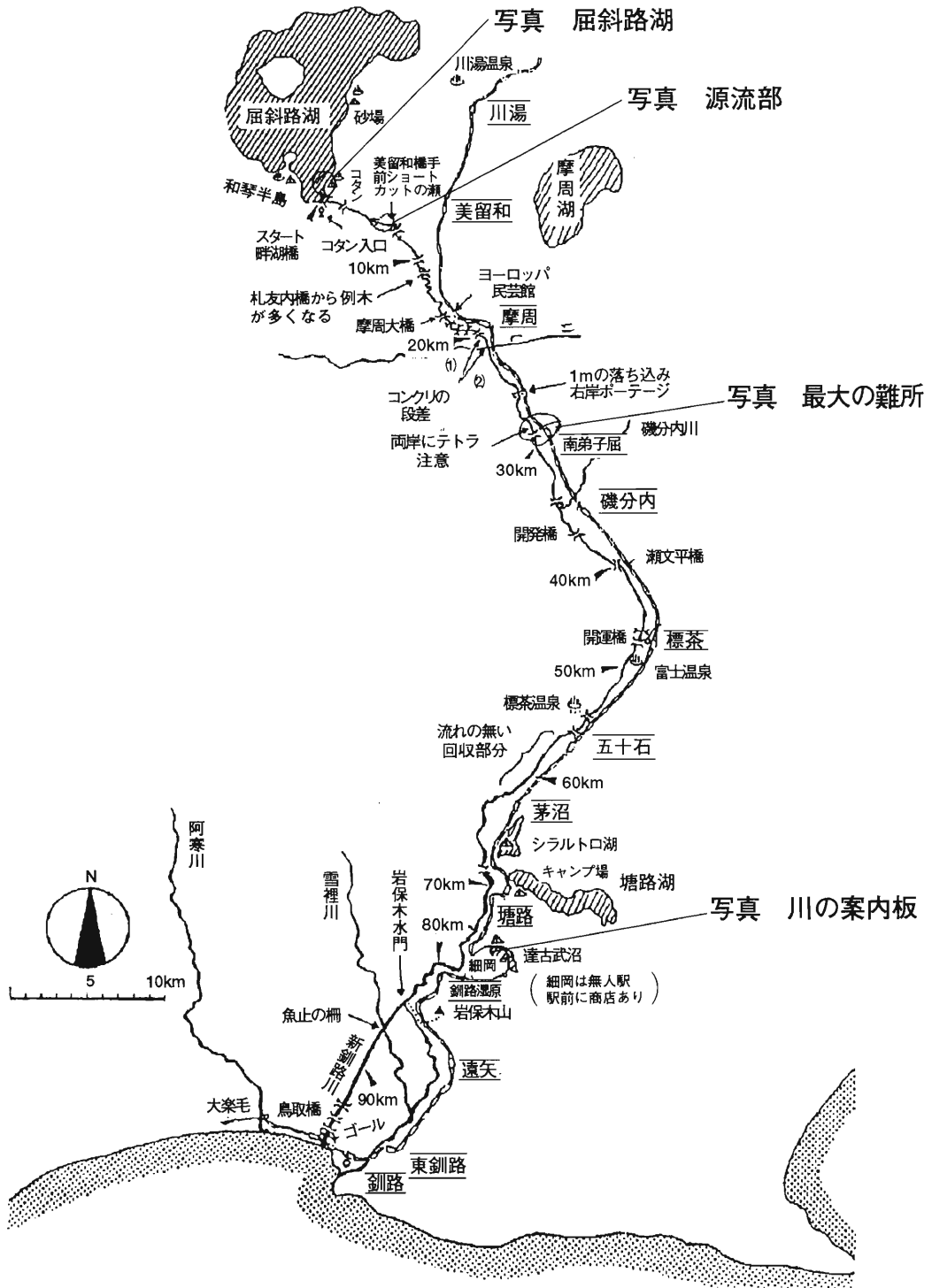
愛好家たち釧路川を清掃

【釧路町】カヌーでクリーン作戦をと、恒例の釧路川清掃奉仕が三十一日、同川の塘路湖―細岡間で行われ、地元のカヌー愛好家らが水面のごみを拾いながら川下りを楽しんだ。

同川と釧路湿原の環境を守るため釧路カヌー連絡協議会が毎年春、秋の二回行っており、今年で四年目になる。この日は、少ない絶好のコンディション。参加者は、カヌーを自家用車に積んで同湖路漕友会（仲尾直人会）の約五十人が参加し、前十時に三十艇が次々に川下りを終え、カヌーで集めたごみを岸に上げる参加者ら。

同日までの雨がうそのように晴れ上がり、風も少ない。集めたごみは、空き瓶や発泡スチロール製の箱のほか、まくらやオイル缶などトラック一台分の減ってきた」と、これまでの取り組みの成果を喜んでいた。

4. 釧路川地図



さあカヌーについての知識は十分、あとは鳥たちが大地を舞い、草花が心地よい風に揺れる釧路川を存分に楽しみ下ってください。



▲ 釧路川源流部 屈斜路湖

源流部 ▶



◀ 南弟子屈落込み釧路川最大の難所



▲ 川の案内板



▲ 第6回湿原フェア カヌー体験



◀ 第6回湿原フェア カヌー体験

